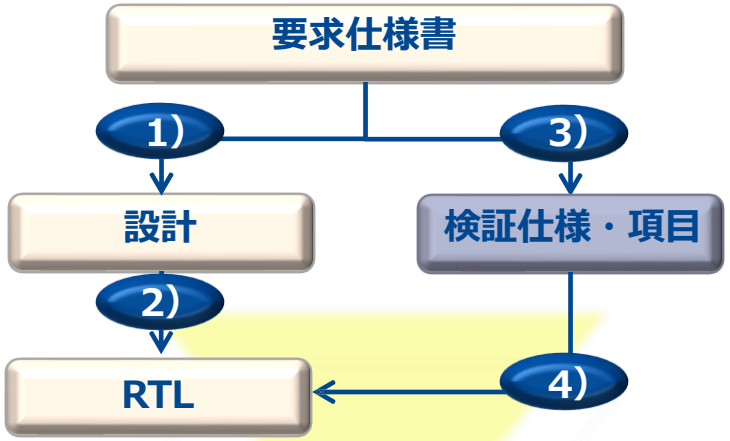
仕様書セミナー

設計仕様書
検証仕様書

設計・検証における仕様書の重要性

■設計・検証でのリスク内在において



開発において、設計における各フェーズには「要求仕様」をベースに
“等価”を意識した設計・検証が必要である。
左記より、

1　機能から構造への落とし込み（設計仕様書）
2　構造の実現化（RTL）
3　機能が網羅されているかの確認（検証仕様・項目）
4　構造＝機能の実現性確認（検証）

上記箇所で誤解釈や実装漏れ等のリスクを孕んでおり
開発期間への影響が大きいと考える。

【開発想定フロー】

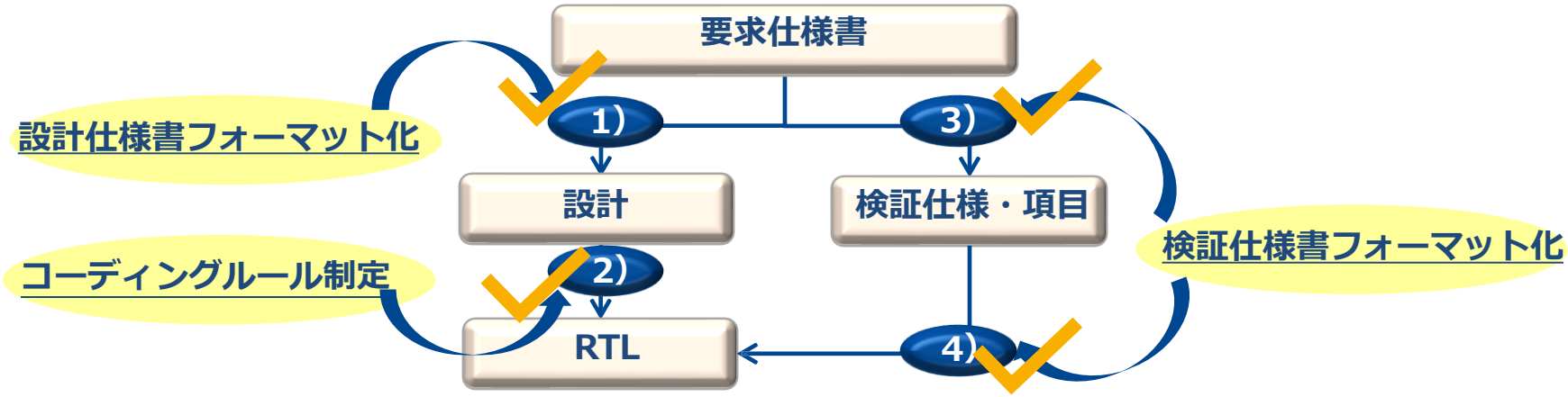
【実際のフロー】

上記のように、各ポイントでの手戻りの発生から、開発期間の延長、コスト増大の可能性を秘めている。
上記が発生する要因として、エンジニアへの依存からの作業漏れも要因である。

“仕様書のフォーマット化”による作業一元化と効率化、また資産性向上が見込めると考える。

Vtechでのフォーマット化における取組

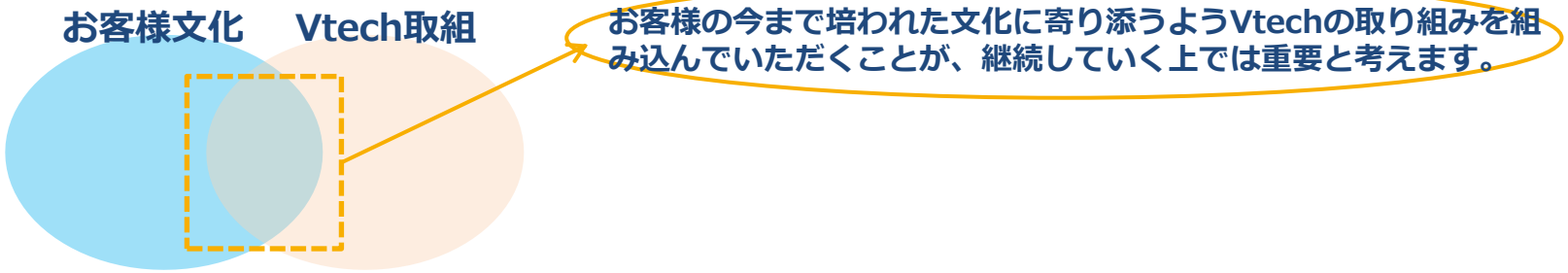
■Vtechでの取り組み



Vtechとしては、過去からの500件強の実績を元に、ルール化における取り組みを実施。
上記でのルールを実施した案件もあり、一様に“手戻り”の低減へとつながった実績もあります。

■ルール運用におけるVtechの取り組み

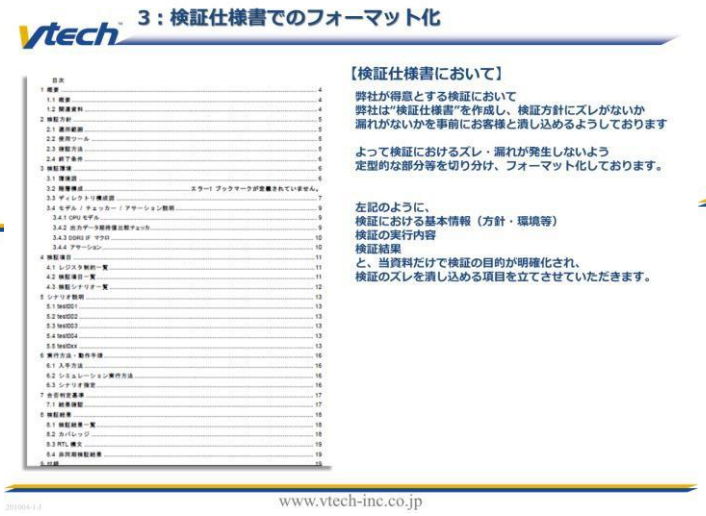
設計仕様書・検証仕様書フォーマット、コーディングルールはVtechとしても、現時点での一つの解としています。
ただお客様すべてに適切かは要相談と考えております。



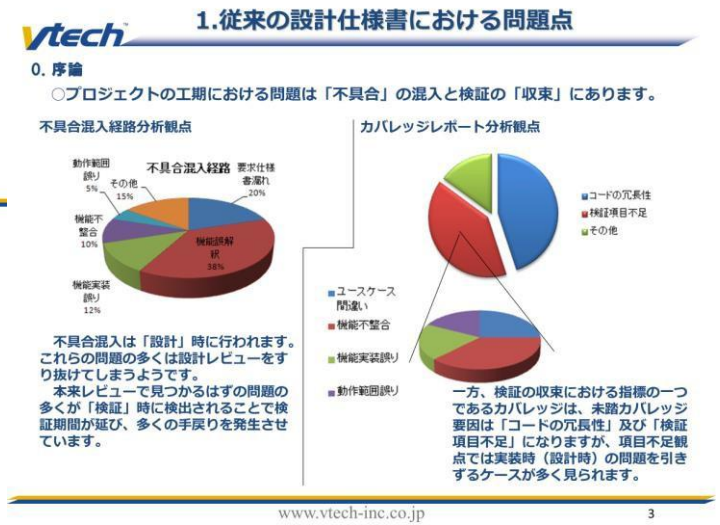
設計仕様書・検証仕様書セミナー

　マスク改訂が必要になるような不具合の50%は、要求仕様の実装漏れや仕様書の誤解が原因と言われています。このような不具合をなくすには、「第三者検証（設計者以外による検証）」の実施が必須です。
　長年の第三者検証の実施を通じて、「抜け・漏れ」の防止には、洗練された仕様書フォーマットの活用が有用との結論に至りました。
　弊社の設計＆検証サービスの一環として、仕様書フォーマットのセミナーも実施しています。仕様書の在り方について、お悩みの方は、是非、問い合わせください。

検証仕様書フォーマットのセミナー



設計仕様書フォーマットのセミナー



Thank you!